

2026年7月

MITOMI FUKUSHIKAI

三富福社会通信

Vol.27

(社福)三富福社会

広報部 発行

山梨市三富川浦 2203

☎0553-39-2714

<https://www.mitomi-fukushikai.com>



特集：「各事業所から～2026 年度取組みについて～」

■研修報告

■新人職員紹介・異動職員のお知らせ

■永年勤続表彰

■令和7年度 三富福社会決算報告

etc . . .



7

2026

2026 年度が始まりました。各事業所の近況と今年度の取り組みについて、また、理事長より三富福祉会中長期計画についてお伝えしたいと思います。

特集：各事業所から ～2026 年度取組みについて～

白樺園（施設入所支援・生活介護）

白樺園は現在 27 名の方が生活しています。法人の計画では 2 年後に新 GH 開設、長期計画として白樺園入所利用者の地域移行を掲げています。大きな目標ではありますが、利用者のみなさんが『安心して生活できる場所』が白樺園ではない場所であっても、ご本人らしく生活していけるよう準備していきたいと考えています。加えて、利用者一人ひとりと話をし、向き合う時間を大切にし、『声をきくこと』に重点を置いて支援していきます。

今年度も、利用者も職員、一人ひとりの毎日が豊かになるよう取り組んでいきます。



ハロハロ一番館（生活介護）

今年も一人ひとりのニーズやストレングスを大切に、健康に毎日通所していただけるよう、職員一丸となり、丁寧に支援していきたくております。活動においては、『身体健康及び身体機能維持』、『アート活動（創作活動）を行う機会の提供』、『農福連携作業』、『社会参加活動』、『皆さんが安心して標準的な支援』を中心に据え、利用者様に満足感を抱いていただけるよう向上心を持って全職員で取り組みます！

今年度もよろしく
お願い致します。



ワーキングベースプロペラ（生活介護）

プロペラは今年度も、一人一人の強みを活かした支援を大切にしながら、農福連携や商品づくりを通じて地域とのつながりを深めていきます。利用者の皆さんが社会の中で役割や達成感を感じられる機会を上げ、笑顔と成長が共有できる事業所を目指して取り組んでまいります。



ハナモモ（生活介護）

生活介護ハナモモでは、強度行動障害のある方への専門的な支援に力を入れています。一人ひとりの特性や得意なことを大切にしながら、様々な活動を提供しています。また、ハナモモホームと連携し、日中活動から生活の場まで切れ目のない支援を実施しています。これからも安心して過ごせる環境を作りたいです。



ハナモモホーム（グループホーム）

月日の経過と共に地域での生活の幅が広がってきました。強度行動障害のある利用者さんも、地域のスーパー等で安心して買い物ができるよう段階的支援を行い、自立的な行動の広がりが見られました。今後も生活介護事業所ハナモモとの連携をさらに深め、一人ひとりの生活全体を見据えた 24 時間一貫した支援を提供するとともに、地域の中で安心して暮らし続けられる環境づくりに努めてまいります。



ハナミズキホーム（グループホーム）

今年も入居者が安心して生活できる居場所として、ＱＯＬを意識した専門的な支援及び家庭的な支援を続けていきたいと思ひます。グループホームの基本方針は『安心・安全・安らぎ』です。健康面も含めた日常生活に関わる支援、衛生的な生活環境の実現と共に、余暇支援も重点的に支援していきまひす。それぞれの方が大切にしている趣味へのニーズの充足と、新しい楽しみを持てるような提案型支援も行ひたいです。



しらかばホーム・いるとこ（グループホーム）

利用者さんが地域でその人らしい生活を送れるようサポートし、心地よく生活するために必要となる合理的配慮を実施します。今年グループ外出など仲間との思い出を作れるような支援も行ひたいです。医務とも連携しながら利用者さんの身体状況に応じた支援の在り方も常に検討し、皆が安心して暮らせる場となるよう支援者一同努めていきまひす。



ハロハロニ番館（居宅支援等）

ご利用者一人ひとりの生活に寄り添った支援を大切にしてきました。外出支援や日常生活のサポートを通じて、安心して地域で暮らせる環境づくりに努めています。一方で人員不足が課題となっており、支援体制の維持に工夫を重ねています。今後は人材確保と育成、地域連携を強化し、より質の高い支援を目指してまいります。



ハロハロキッズ（放課後等デイサービス）

昨年度末2人の卒業、今年度2人の児童が入り、登録児童は17名です。毎日10人前後の児童が来ています。関係する学校は10校で山梨市・甲州市・特別支援学校を毎日行き来しています。

今後も、個々を大事にその子の居場所づくり、一人一人の特性に応じた療育を心がけて行きたいと思ひます。



オアシスやまなし結（地域包括支援センター）

私たちの事業所は毎月、様々な活動に取り組んでいます。カラオケや職員とボードゲームをする方もいます。母の日にはフラワーアレンジメントにチャレンジし、ご家族にプレゼントしました。一日外出企画では、いちご狩りやハイジの村へ行き、利用者さん同士の交流を深めました。

こうした活動を通して、皆さんの居心地の良い「居場所づくり」を目指しています。興味のある方は遊びに来てください！



サポートセンターハロハロ（相談支援）

今年度は相談支援専門員が一人独立する為、3人の計画相談員、1人の療育コーディネーターという4人態勢の相談支援部となります。人数は減りますが、相談支援の質を落とす事無く、意思決定支援計画と呼べる計画を作成していきまひす。また、来年度の報酬改定に関する情報が少しずつ漏れ伝わってくるため、アンテナを立てながら備えていく事が重要になると考えまひす。

皆さまお気軽にお声がけください！！



三富福社会理事長

山西 孝

理事長より



法人中・長期計画について

令和8年度から新たな中期計画および長期計画をスタートさせました。社会の環境変化に対応できるように計画しました。また法人内のガバナンス（企業内統治）が十分に働いていないのが現状です。各事業所の管理者の権限が明確になっておらず混乱が見られ、コンプライアンス（法令順守）が守られていないケースがあります。例えば就業規則が事業所ごとに正規の手続きを経ずに変更されていることが散見されています。事業計画書には明記してないが組織のガバナンスを再構築することを前提に以下の事業計画を作成しました。

法人の最大の課題は職員の確保が難しくなってきたこと、とりわけ新卒の正規職員の採用は3年連続で0人です。職員が少ない数での事業継続のために事業を再編し職員配置を効率的に配置します。管理者には能力と熱意が求められます。

① グループホームの集約

しらかばホーム（定員10）とハナミズキホーム（定員10）を合併して定員20名の日中支援型ホームとします。現在のハナミズキホーム1階の単独短期入所を廃止します。

② 第2ハナモモホームを建設し共同生活援助（定員7名）を設置します。

③ 生活介護ワーキングベース（1番館従たる事業所）とハナモモ生活介護（定員21）を合併し生活介護ハナモモ（定員40）とします。

④ 単独短期入所は廃止し、日中支援型ホームに2名の枠と第2ハナモモホームに併設短期入所の枠を2名確保します。人員不足のためハナミズキホームの単独短期入所は全日の営業が出来ませんでした。

⑤ 白樺園の女性利用者3名を第2ハナモモホームに移行します。定員30名で入所施設は継続して行きます。

①②については令和10年4月開設予定

③については令和11年4月実施予定

④については令和10年4月実施予定

⑤については令和10年4月実施予定

以上の中期計画では事業所は集約されますが若干の事業拡大となっています。長期計画は白樺園利用者の全員地域移行（グループホーム移行）です。残念ながら現行の障害者総合支援法では実現不可能です。さらなる地域生活重視の法改正を希望します。

法人の理念を実現するには真摯たる職員が不可欠と改めて思う次第です。

強度行動障害トレーニングセミナーを行いました

in ハナモモ

5月17日、法人内において「1Day トレーニングセミナー」を開催しました。本セミナーは、強度行動障害のある方への理解と支援の向上を目的とした研修プログラムです。実際の支援現場の事例を教材として取り上げ、行動の背景を理解し、適切な支援方法を学ぶ「現場密着型の事例学習」を重視しています。さらに組織や支援者間での共通理解の促進を図り、支援の一貫性や質の向上に繋がります。また、情報共有や交流の場を通じて、支援者同士のネットワークを広げ、孤立しない支援体制づくりを支援します。

当日は法人内の管理者を含む6名の職員が参加し、明星大学の縄岡好晴先生をトレーナーに迎え、強度行動障害支援に関する実践的な学びを深めました。

本研修では、協力者であるAさんにご参加いただき、実際の支援場面を通して利用者理解や支援方法について検討を行いました。参加者はAさんの行動だけを見るのではなく、その背景にある特性や得意なこと、苦手なこと、環境との関係性について整理しながらアセスメントを実施しました。その上で、「何をするのか」「どこまで行えば終わりなのか」「次に何をするのか」が分かりやすく伝わるよう、ワークシステムの作成に取り組みました。

実際にAさんへワークシステムを提供すると、予想通りに進む部分もあれば、思うように伝わらない場面もありました。参加者は縄岡先生から助言を受けながら、提示方法や課題内容、環境設定をその都度見直し、試行錯誤を重ねました。小さな変化や成功の積み重ねを確認しながら支援を組み立てていく過程を体験することで、利用者一人ひとりに合わせた支援の重要性を実感する機会となりました。

研修を通して、行動の背景には必ず理由があり、その理由を理解し環境を整えることが安定した生活や活動につながることを改めて学びました。参加者からは「本人の視点に立って考えることの大切さを実感した」「明日からの支援に活かしたい」といった感想が聞かれました。

【吉村】



赤い羽根共同募金より 助成をいただきました



この度山梨県共同募金会・赤い羽根共同募金様より、白樺園へテント二張りをいただきました。日中活動や余暇活動がよりいっそう充実したものとなるよう大切に使用させていただきます。【松嶋】



新人職員紹介



1 月から白樺園にて勤務を
させていただいております。
利用者様の力になれる
職員を目指し、精一杯頑張
ります。

生活支援員 守屋 優斗



2 月から白樺園で看護師と
して勤務している神宮寺宏
樹と申します。ひろきと書い
てこうきと読みます。よろし
くお願いいたします。

看護師 神宮司宏樹

令和 8 年度職員の異動について

上田三佐子 白樺園⇒ハロハロー番館・しらかばホーム・いるとこ

志村 裕三 ハナモモファーム⇒ハナミズキホーム

中込 菜 ハナミズキホーム⇒白樺園

大迫 一樹 白樺園⇒ハナモモファーム

永年勤続表彰

勤続 10 年 ハロハロ二番館 澁谷 恵 ハロハロ二番館 古屋真由美

ハナミズキホーム 志村 千里

勤続 20 年 相談支援部 小林 美晴 ハロハロ二番館 田中 和徳

ハナミズキホーム 佐野 明美

勤続 30 年 理事長 山西 孝 ハロハロ二番館 佐藤利江子

「気が付けば 30 年という長い年月が経っていました。ハロハロの立ち上げから関わり、たくさんの出会
いや別れがありました。毎日楽しい事ばかりではありませんでしたが、子供たちの笑顔や成長を見るた
びに『頑張って来てよかった』と感じています。ここまで続けてくることが出来たのはひとえに、子供たちや
そのご家族、一緒に働いてきた皆さんや、回りの方々のおかげです。感謝の気持ちを忘れず、これからも
自分らしく頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございます。」 ハロハロ二番館 佐藤利江子



2026年7月

令和7年度 三富福祉会決算報告							
貸 借 対 照 表							
令和8年3月31日現在							
資 産 の 部				負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減		当年度末	前年度末	増 減
現金預金	106,431,877	77,048,284	29,383,593	流動負債	19,841,023	23,037,621	▲ 3,196,598
その他流動資産	112,440,252	102,752,065	9,688,187	固定負債	224,018,422	233,345,218	▲ 9,326,796
基本財産	577,476,098	596,337,529	▲ 18,861,431	負債の部合計	243,859,445	256,382,839	▲ 12,523,394
その他固定資産	104,557,049	99,271,980	5,285,069	純 資 産 の 部			
				基本金	186,054,711	186,054,711	0
				国庫補助金等特別積立金	182,335,683	191,320,784	▲ 8,985,101
				その他の積立金	15,000,000	10,000,000	5,000,000
				時期繰越活動収支差額	273,655,437	231,651,524	42,003,913
				純資産の部合計	657,045,831	619,027,019	38,018,812
資産の部合計	900,905,276	875,409,858	25,495,418	負債及び純資産の部合計	900,905,276	875,409,858	25,495,418
活 動 増 減 差 額							
	令和8年3月			令和7年3月		増減	
利用者負担金収入	43,764,318			42,581,252		1,183,066	
介護保険等収入	773,021,078			727,166,930		45,854,148	
寄付金収入	2,320,000			1,640,000		680,000	
雑収入	7,039,419			7,171,062		▲ 131,643	
サービス活動収益 合計①	826,144,815			778,559,244		47,585,571	
人件費支出	582,744,098			574,411,011		8,333,087	
事業費支出	106,514,081			105,850,130		663,951	
事務費支出	71,635,885			72,187,595		▲ 551,710	
減価償却費（国庫補助金等控除後）	14,782,609			15,813,261		▲ 1,030,652	
サービス活動費用 合計②	775,676,673			768,261,997		7,414,676	
サービス活動増減差額③（①－②）	50,468,142			10,297,247		40,170,895	
受取利息等収入	38,133			24,735		13,398	
借入金利息支出	▲ 3,502,360			▲ 3,017,302		▲ 485,058	
雑損失	0			0		0	
固定資産売却・除却損益	▲ 2			▲ 2		0	
当期活動収支差額④	47,003,913			7,304,678		39,699,235	
施設整備補助金収入等⑤	2,525,000			222,000		2,303,000	
国庫補助金積立額⑥	▲ 2,525,000			▲ 222,000		▲ 2,303,000	
前期繰越活動増減差額⑦	231,651,524			219,346,846		12,304,678	
修繕積立金積立額⑧	▲ 5,000,000			▲ 5,000,000		0	
修繕積立金取崩額⑨	0			10,000,000		▲ 10,000,000	
次期繰越活動増減差額（④＋⑤－⑥＋⑦－⑧＋⑨）	273,655,437			231,651,524		42,003,913	
資 金 収 支 差 額							
当期活動収支差額④	47,003,913			7,304,678		39,699,235	
施設整備補助金収入等⑤	2,525,000			222,000		2,303,000	
設備資金借入金収入	0			90,000,000		▲ 90,000,000	
過年度修正	0			0		0	
設備資金借入金元金償還支出	▲ 14,510,647			▲ 142,122,423		127,611,776	
保証金戻り	496,000			216,000		280,000	
固定資産取得支出	▲ 4,408,010			▲ 886,000		▲ 3,522,010	
キャッシュフロー戻し（減価償却費他）	14,782,611			15,813,263		▲ 1,030,652	
修繕積立金取崩額⑨	0			10,000,000		▲ 10,000,000	
修繕積立金積立額⑧	▲ 5,000,000			▲ 5,000,000		0	
当期資金収支差額 合計	40,888,867			▲ 24,452,482		65,341,349	

人材開拓 project

管理部長（採用担当）

佐野 毅

ふくしのころ（その2）～ 大島藤倉学園の思い出

～前回までのあらすじ～

筆者が学生時代に「糸賀一雄氏」の足跡を辿って滋賀県の近江学園を訪問したことが「障害福祉の世界」に飛び込むきっかけとなったことを書きましたが、そのことが縁で、伊豆大島に「大島藤倉学園」があることを知り筆者が大学卒業後に大島藤倉学園に赴任することになりました。

大島藤倉学園は、御存知のとおり「障害福祉の父」と謳われた糸賀一雄氏よりも遡ること大正前期に日本で4番目にできた歴史ある知的障害者施設です。藤倉電線という大正時代の大企業が所有していた伊豆大島の広大な土地を譲り受け、初代園長は川田貞治郎氏が就任しました。川田氏は藤倉学園を立ち上げるにあたり単身渡米しペンシルベニア大学で当時先駆的といわれた知的障害者に対する社会的リハビリ方法を学んで帰国しました。帰国後はペンシルベニア大学で学んだリハビリ方法をもとに川田氏独自の「心練法」を編み出しました。敬虔なクリスチャンでもあった川田氏の思想は、博愛・平等の精神のもとで知的障害のある人を施設の中で隔離・保護・収容するのではなく、社会の一員として社会に巣立ってくことができるように社会的リハビリを行うことでした。佐野が赴任した当時の大島藤倉学園では、職員も一緒に学園の中に住み込んで文字どおり起居を共にしながら利用者の社会的リハビリに取り組んでいました。（つづく）



☆表紙作品紹介☆

ハロハロー番館 アート活動



気が付けば春はあっという間に過ぎ去っていき、今年も暑い夏を迎えようとしています。暑さは年々過酷さを増すばかりですが、その分イベントも盛りだくさんで楽しい季節でもあります。ジリジリとした夏の暑さに負けずに、今年も元気に毎日を過ごしていきたいと思います。【丸山】

<職員募集中!!> ☎ 0553-34-9200

三富福社会・採用担当まで

生活支援スタッフ（資格不問）

相談支援員（社会福祉士、精神保健福祉士）

ヘルパー、介護福祉士、給食調理員

編

集

後

記

三富福社会通信 Vol. 27!!

ご厚意をありがとうございました

令和7年度の三富福社会後援会費合計額は1,324,965円でした。法人における社会福祉事業のための後援会費につきまして、たくさんのご厚意を賜りましたことを謹んで感謝申し上げます。ご協力いただいた方々のお名前、金額等は失礼ながら控えさせていただきますことをご理解ください。当法人が益々の発展を遂げるよう、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。【事務長 小田切】

今号では法人の中長期計画や各事業所からの近況を報告させていただきました。法人職員としても、5月に中長期計画と事業計画を共有する研修を受けており（詳細は次号の三富福社会通信にて🌸）、職員間で利用者さんの幸せを願い考え、法人の将来像を思い描くことができました。今年度も広報誌を通じて、三富福社会の活動をお伝えできたらと思います。2026年度もよろしくお願いします。【吾妻】

広報部委員：吾妻、遠山、丸山、清水、松尾、宮川